

# 世界と議会

World  
and  
Parliament

一般財団法人  
尾崎行雄記念財団  
www.ozakiyukio.jp

2018 夏号  
OZAKI  
YUKIO

## 特集：日本の課題と政治の未来

罎堂塾設立20周年記念・特別講演会

「これからの『政治』の話をしよう」／勝谷 誠彦

特別論文

外務省医務官としての二十五年間

— 邦人支援の現状と課題／仲本 光一

連載「尾崎行雄伝」

第十章 亡命の客

INPS JAPAN

決して広島と長崎の悲劇を繰り返してはならない

／アントニオ・グテーレス 国連事務総長



OZAKI  
YUKIO

平成30年8月20日発行・季刊発行・第580号  
〒110-0014 東京都千代田区永田町1-1-1 TEL 03-3581-1778

世界と議会

(平成三十年夏号 第五八〇号)

世界と議会 (第五八〇号)



今や必要不可欠となった、インターネット時代の政治活動戦略。ホームページにSNS等、もはやネット抜きの選挙戦は考えられません。私たちVoiceJapanは、政治活動に最適化されたツール「ネット参謀」の導入から最新の映像コンテンツ制作までをワンストップで提供いたします。

政治はもっとインターネットを活用できる。それを証明するのは、私たちと他の誰でもない「あなた」です。



戦略コンサルティング・サイト制作および運営・映像コンテンツ編集配信

**株式会社VoiceJapan** —政治と市民をインターネットでつなぐ—

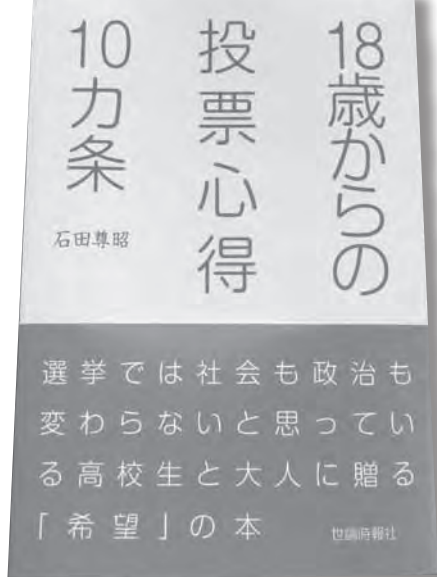
<https://voicejapan.jp/>

18歳と19歳の男女240万人が投票します。

第1条 何よりもまず、自分はいかなる政治を希望するかという自分の意思を、はっきりと決めてかかることが大切だ。選挙は、国民の意思を国政に反映させるために行われる。つまり、反映する本体がしっかりしていなければならない。有権者自身に政治的意思——どのような政治、どのような国・社会を実現したいと考えるのか——がなければ、いくら投票しても意味がない。

●主な目次／民主主義と“格闘”しよう／選挙・政党・議会／民主主義と立憲主義／投票の心得10カ条／議員の資格10カ条／「考える力」とメディア・リテラシー他

全国の高校から注文が相次いでいます。



石田尊昭 著

一般財団法人 尾崎行雄記念財団  
理事・事務局長

本体価格：1,200円+税（送料無料）  
本書のお求めは最寄りの書店、もしくは世論時報社に  
直接お申し込みください。短日でお届けいたします。



高校生と指導の教員に  
未来をつくるため知ってほしい  
「投票」することで変化すること  
が沢山あることを——。

好評発売中

# わが遺言

『わが遺言』は、尾崎行雄が1951年（昭和26年）、91歳の時に著したものです。本著は、罌堂の理念の集大成ともいべきもので、世界連邦構想、民主主義のあり方、日本及び日本人に求められる価値・理念などについて述べています。2004年、尾崎行雄没後五十年を記念して復刻されました。

## 目次

### 第一部 世界と日本

1. 激動する世界と日本の運命
2. 世界連邦建設の提唱

### 第二部 日本改造の方途

1. 民主教育のあり方
2. 日本語改良の課題
3. 日本の生きる道
4. 民主政治断想

### 第三部 命に代えて

1. 日本の進路を憂う
2. 政府・政党・国民に与う
3. 解散権の所在を質す

定価 2,000円（税込）

四六判 288頁



ご注文・お問い合わせ先

（一財）尾崎行雄記念財団

TEL:03-3581-1778/FAX:03-3581-1856

# 『世界と議会』

## (夏号) 目次

峯堂言行録 ..... (2)

### 特集：日本の課題と政治の未来

峯堂塾設立 20 周年記念・特別講演会

「これからの『政治』の話をしよう」..... 勝谷 誠彦 (4)  
(コラムニスト)

特別論文

外務省医務官としての二十五年間  
— 邦人支援の現状と課題 ..... 仲本 光一 (16)  
(外務省診療所長)

連載『尾崎行雄伝』 第十章 亡命の客 ..... (35)

### INPS JAPAN

決して広島と長崎の悲劇を繰り返してはならない..... アントニオ・グテーレス (48)  
(国連事務総長)

財団だより..... (52)



## 公党変じて私党となり

我が政党の現状をもって、三十六、七年以前の創業時代に比すれば、その組織、訓練、節制、及び勢力において、ほとんど隔世の観あり。しかれどもなおこれをもって満足すべきにあらず。今二、三の欠点を挙げれば、

- (一) 重きを主義政見に置かざること
- (二) 歴史的及び感情的色彩濃厚に過ぎること
- (三) 党派の競争のために、動もすれば本来の目的を遺忘すること
- (四) 党派として正義の観念に乏しきこと

余は一生の心血を政党のために注ぎつくし、これを愛する極めて深厚なるが故に、備わらんこと

たまたま主義政見のために離合する者あれば、世人これを罵つて変節漢となす。彼等は、政党の節操はその主義政見に対して守るべきものにして、その首領若しくは役員に対して、守るべきものにあらざること解するあたわざるなり。

けだし封建君主もしくは博徒間における親分子分の関係を律する所の思想は、人をして正邪曲直を問わず、この思想をもって政党を訓練運用す、公党変じて私党となり、主義政見を度外視して、

ただ党勢の拡張をこれ図るに至るは、すこしも怪しむに足らざるなり。

一九一七年  
(大正六年)

『立憲勤王論』  
より



明治25年、吉井木堂会にて  
(中央・尾崎行雄、尾崎左・犬養毅)

を政党に求めて、この苦口の忠言をなすのみ。

東洋には、古来朋党的思想ありといえども、公党的思想なし。彼の政党なるものは、国家の公事をもってその唯一の目的となし、その主張を實行せんがために団結する者なり。故にその間すこしも私情を挿むを許さずといえども、ひとたびこれを東洋に移植すれば、たちまち朋党的色彩を帯び、動もすればすなわち党利を先にして国利を後にするに至る。

ただ主義政見に基づきて離合集散すべき政党员も、ただただ因縁情実に因つて離合集散するに至り、その首領と一般党员との関係は、あたかも封建君主と家の子郎党、または博徒社会における親分子分の関係と其の趣を同じにするに至る。

美事なる

此の議事堂に

ふさわしき

議員を得るは

何時の代ならむ

昭和十一年

尾崎行雄

【罌堂塾設立二十周年記念・特別講演会】（二〇一八年四月二十一日開催）

## 「これからの『政治』の話をしてしよう」

勝谷 誠彦

（コラムニスト）



勝谷誠彦（かつや・まさひこ）  
一九六〇年、兵庫県生まれ。雑誌記者としてフリーピン動乱や湾岸戦争、カンボジアPKOなどを取材。フリーに転じてからは、戦場などの取材、食や旅のエッセイ、また月刊誌のコラム（「あっぱれ！築地をどり」）、経済誌への連載など幅広い分野で執筆。ジャンルを問わず熱狂的なファンを有する。『64万人の魂 兵庫知事選記』『日本一わかりやすいイスラーム講座』『美しき日本人は死なず』など著書多数。毎朝配信されるメールマガジン「勝谷誠彦のXXな日々」は今年で創刊十二年、その鋭い筆致は今もなお衰え知らずの快進撃を続けている。

本日はお休みのところ、またこんなに良いお天気の中を、私の講演にお越しいただきありがとうございます。

実は肋骨が五本折れておりまして、ちよつと大きな声を出しにくいのですが、まあ、それでちょうど良いくらいかなと思います。

今日は午前中、毎年行われる総理主催の「桜を見る会」に行っていました。完璧に「葉桜を見る会」になっておりました（笑）。

その会に出ていて感じたのですが、安倍さんの今の力というのは、ものすごいものだと思います。けです。というの、安倍さんから声をかけていただく、みんな感動するわけですよ。握手なんてしてもらおうと喜びしているわけ。

これは、久しぶりの大統領型の総理大臣ですね。日本国の国力としては、こういうのも良いかもしれないなと思いました。

### ■野党に政策がない

僕は安倍さんの政策が悪いとは思っていません

ん。いや、非常に良い、真つ当な、王道を行くことをやっていると思います。

野党にお願いしたいのは、もう少し対抗できる政策を出してほしい。だって今、何も無いじゃん！今カウンターパートとして出すべき政策、本当はいろいろあるんですよ、大事なものが。でも、出さないし、出せない、基本的に不勉強なんだな。

僕に出せて言ったなら、野党のためにいろいろ考えて、いくらでも、いっぱい出せますよ。それが全く出てこないというのは、野党がそれぞれ小さくなっちゃって、党として、きちんとした勉強の機会が持てなくなっているんじゃないかな。

地方でも野党の力が全然なくて、下からしっかりと政策を練り上げていくだけの草の根の勉強というものがない。まさに罌堂先生なんか望んでいたのは、そういう草の根から生まれてくる民衆の力であり、立憲主義であったはずなのに、それが全くない。

これは政治が悪いだけじゃなくて、教育も悪い。自分の頭で考えさせないから。パソコン相手にイ

エスカノーかだけやってれば、そうなっちゃうんですよ。

政治というのは総合芸術なんです。総合芸術というものは、あらゆるものを有機的に、繊細に組み合わせなきゃいけない。単にAとBとCとを繋いで何かを作るんだったら、人工知能、AIでできるんですよ。

でも、人間の脳というのは、そんな表面的な計算上のことではなくて、もっと深いところの感情、心の機微に配慮しながら、それぞれの要素を繊細に組み合わせることがができる。それは人間の脳でしかできないんですよ。

だから政治という総合芸術は、まさに人間にしかできないものなんです。昔のSFによくあったけれども、政治をAIにやられたら怖いでしょう。

ところが今、総合芸術としての、本当の政治を行える人材がいなくて、「政治の底力」みたいなものがなくなっている。罇堂先生たちが一番日本人に求めているのは、それだと思うんですね。

ですよ。

江戸から明治に変わる激動の時代、あの時代になぜ転換することができたのか。日本の江戸時代というのは、世界に冠たる文明国家だったからですよ。識字率七〇%です。当時のヨーロッパは三〇%です。

誰もが寺子屋に行つて読み書き算盤を学んで、皆が本を読めた。時代劇なんかでは「ハイハイこんな事件があったよ」とか言つて、かわら版を売つてたりするでしょ。あんなの海外ではありえないですもん。海外でそんな映画見たことないですよ。だって読めないんだから。

明治から富国強兵に走つたときも、すぐにああいう国の切り替えができて、あつという間に日清・日露戦争で勝っちゃった。それで世界中が驚愕したわけですよ。でも勝てたのは当たり前で、江戸時代から、あの恐るべき教養が民衆に備わつていたからなんですよ。

それが今に続いている。続いていたはずなのに、戦後、馬鹿な日教組が…あ、今日はこういうこと

### ■立憲民主主義とは「人任せにしない」こと

立憲制とか議会制とかというシステムの前に、まずは、自分の頭で政治をするということが求められていると思います。

立憲民主主義は何かというと、皆さんが持つている一票一票が国を動かすつてことでしょ。そして、その一票を投じるには、自分の頭で考え抜いて、すべてを知つた上じゃないとダメでしょう。

何か宗教団体だとか、利権団体だとかのバスに乗せられて投票所に行つて、言われるがままに投じるというのは、ただの投票マシーンです。そんなの立憲でも民主主義でもありませんよ。

そうじゃなくて、あなたは今の地方行政について、この町について、あるいは国についてどう考えますか——そのときちゃんと向き合うことが、立憲民主主義なんです。

この「立憲」に対抗する言葉は、例えば王政とか独裁政なんです。これは一人の権力者、一人の頭にすべて任せてしまつて、自分の思考を放棄するということでしょう。その反対が立憲民主主義

は言わない(笑)。

### ■政治を目指したきつかけ

僕は政治なんてものに関わる気は全くなかったんです。でも、振り返ってみると、ああ、実はあそこから関わつていたのでなああと、思うことがあります。

僕は兵庫県の尼崎生まれなんですけれども、小学校六年生の時に児童会長に立候補して、通りました。今思えばあれが政治の始まり。ただ僕は圧倒的な秀才だったので対抗馬が出なくて、選挙にならなくてつまらなかつた。

ただ、児童会長つて節目節目、運動会とか全部、一応スピーチするんだよね。自分でも天才じゃないかと思うくらい、当時から口から先に生まれてきたような、それでごまかしてずっと生きてきたという(笑)。

大学を卒業して文芸春秋に入つて、汚れ仕事ばかりやりました。東京大学を出たエリートが作家先生のご担当をするんですけれど、私は写真



雑誌にいきなり配属されました。最初、文芸春秋がなぜ僕を採ったのか、わからなかったんですが、配属されてわかりました。

文芸春秋では誰一人としてできない汚れ仕事を、一手にやらせようということだったんですよ。あらゆる汚いことをやって、十年いて、お払い箱。それでもって、まあフラフラしながらおったわけですが、そのフラフラしているときに、忘れもしない八月十五日のお盆、終戦記念日の雨がザーッと降る日でした。

この瞬間まで、実際の政治とは一切関わりがなかったんですよ。雨のザーッと降る中を、田中康夫という人が肩を濡らして、うちの番町にある事務所に来たんです。あの人は作家ですから文芸春秋にも来ていて挨拶ぐらいたったことがありますが担当したことはありませんでした。

「どうしたんですか田中先生」と言ったら、「いや勝谷さんね、僕、長野県知事選に出ようと思うんだけど、どう思う?」：いや、どう思うっていきなり言われてもなあ…。

### ■兵庫県知事選挙に挑む

まさか現職が五期目に出るとは思わなかったんです。普通は出ないでしょ。相手は共産党だけだと思って、これは勝ちに行つたらうと思って(笑)。兵庫県の僕の生まれ育った土地ですから、それで出たんですが、五百四十万人なんです、県民の数が。恐らく日本で一番過酷な選挙区です。

ご存知のように小選挙区だと、せいぜい十万人ちょっとですよ。東京都は一千万人いるけど、これは特別ですね。

兵庫県は日本海から瀬戸内海まであるんです。ここで許されている選挙カーは二台ほどで、事務所は一か所、これで全部やるわけです。

四十一の市と町があります。全部回ります。ひとつ残らず回りました。ひとつ残らず、今日のようないくつかの場所を借りて集会をしました。対立候補は現職です。今からね、負け犬の遠吠えですからね、そう思っていてください(笑)。

とにかく隅から隅まで、ひとつ残らず、ずーっと回っていく。すると、どこに行っても、皆が沿

要するに、長野県にある平安堂という一番大きい本屋さんの社長とか文化人の皆さんが、お母さんのルーツが長野にある作家の田中康夫を、知名度もあるから引つ張ってきて立てようとしたんです。恐らくこういう外の有名人が、県知事選で落下傘で立った初めてのケースじゃないかと思いません。

私はその時に、田中康夫さんを応援しました。そこから別にどうということもなく来たわけなんです。なぜか今度は、私が兵庫県知事選挙に出ることになったんです。



道で手を振ってくれる、集会も全部満席になる、後ろに立ち見も出る。これはいけたな!と。スタッフと一緒にこれは勝つたと正直思いましたよ。ギリギリまでは、投票日前日のメディアのアンケートでは勝っていたんです。しかし、蓋を開けてみたら、負けでした!

どういふことかという、「組織票」なんです、当日の。だからメディアのアンケートの時はその人たちは答えない、油断させるために。

様々な業界団体は、現職知事に首根っこを押さえられてるから、そりゃあ裏切れませんよ。ああ、そういうことかと思いましたが。まあ負けたことは負けたわけなんですけれども、なるほど選挙というのはこういうものかと。

どこの支援もなかった、どこの応援もなかった。六十四万票をとったけど、結局は、組織や利権集団に勝てなかった。でも、罇堂先生が考えた政治家とか選挙とかって、こういうものじゃないはずですよ。

■政治家は有権者の写し鏡

これは有権者も悪い。結局、この有権者にしてこの政治家なんです。そういう政治家しか育てられていないんですよ。罇堂先生のような政治家を、われわれの手でちゃんと作らなきゃいけない。今ちよつと若い政治家の中で少し芽が出始めているところはあるんだけど、皆、二世・三世なんだな。小泉さんの息子なんか、なかなかいいよ。しゃべりすぎだけでも。でも結局は親の七光りがあるわけでしょ。全くゼロから出てきて、こいつはいいな、こいつは光ってるなというものを育てていかなくてはいけない。

一つは、小選挙区制がダメ。僕の地元は尼崎市で、兵庫八区。だいたい十万票くらいとると通るところなんで、六十四万票の私なら、屁でもないところなんです、まあ選挙区の大きさは違いますが。

でも、もうちゃんといるんですよ、決まった人が。公明党です。昔みたいな中選挙区ならば、だいたい三番目か四番目におもしろい奴が入ったじゃないですか。だからあの頃の国会って、ちよつと

う。日本の議会制民主主義はどうなっているのか、本質的なところを言わないでしょう。これがおかしいんです。

だから皆さんの子供や孫に、もつとそういうことを考えさせてほしいんです。それがないと次の世代で、日本の政治はもつとダメになる。

今の子供たちって、政治についてのくらい勉強しているんでしょうかね。日本の教育というのは、根本的な原理・論理をあまり重んじないで、目先のテクニクだけ教えるわけなんですよね。でも本当に大事なものは、政治でも経済でも、その根本原理なんです。

政治とは何か、経済とは何か、民主主義とは何か、どういう歴史があつて今に至っているのか、そういう本質的な部分をしっかり考える教育が必要なんです。ただただ今起きている現象だけを説明したり、覚えさせたりするような教育は意味がない。

だから僕は、この尾崎財団がやっている罇堂塾なんて、とても良い機会だと思うんですよ。政治

変わったのがいて、それが結構、閉塞的な国会に風穴を開けたりしてた。

今はもう、ガチガチな奴しかいないんですよ。所属する政党に自分のすべてをささげなければいけない。組織にがんじがらめになつて。だから本当につまらない。でもこんなやつて、独裁国家といつしよでしょ。

仮に僕が自分の地元から国会議員に出ようとしたら、例えば自民党の公認をもらうとするでしょ。でも「自公」だから、公明党が出れば僕はここからは出られないですよ。こんな馬鹿な話はないんですよ。まあ出て落ちればいいだけの話だけでも。

こういうおかしな政治の状況を、ちよつとずつ皆さんで声をあげて変えていってほしいと思います。有権者が本気で変えようとしないと、政治家も政治家も変わらないですよ。

■子供のうちから政治教育を

僕が今話しているような根本的な疑問って、実は新聞も雑誌もテレビもあまり言わないでしょ

とは何か。議会制民主主義とは何か。罇堂先生が、その時代に何を思い、どういう行動をとったか。なぜ日本が今のような、良い意味ではこんなに隆盛したのか、悪い意味ではこんなにみじめな政治状況になつているのか。それを数十年という長い単位で丁寧に見ていく、じっくりと考えていくことが大事なわけです。

これは大変申し上げにくいんですが、日本のダメな時というのは、全共闘世代が日本の中枢にいた時なんです。今またその子供たちが中枢に入つてあつて、ちよつとやばい状況になつている。

全共闘世代ってね、僕もそういう括り方は好きじゃないんだけど、何がダメかというところ、人のせいにするんですよ。社会が悪いって。朝日新聞なんか、すべてそうでしょ。

こんな事件が起きたのは社会が悪いからだ！いや、違うんですよ。そいつが犯罪者だから起きたんですよ。何でもかんでも社会のせいにするなど。お前が悪い。もつという俺も悪い。こんな世の中にして申し訳ないと。俺が悪かった、責任を取





■世界の中の日本の役割

世界の話をしませう。急に話がでかくなります（笑）。

世界はどこに向かっていているのか。世界は大きな流れとしては「自由」に向かっていているんです。政治的にどんだん自由の風が吹いていて、例えば皆さんご存じのとおり「アラブの春」っていうのがありましたよね。

今、日本はいろいろなところで積極的平和主義・平和外交とか言ってるじゃないですか。だったら、こういうところに金を出すべきなんです。世界中の小火器、小銃を日本が買取ります、日本が買うから、みんな武器を捨ててください。ところがこれを嫌がるのがアメリカなんです。武器で食ってるから。

これも皆さん、大マスコミに騙されちゃ駄目ですよ。シリアの東グータ地区で化学兵器が使われたということ、アメリカはトマホーク巡航ミサイルをそこに百発撃ち込んだ。あんな狭い地域に百発も撃ち込んだら、生きている人間は誰もいなくなりますよ。実はあれは、ミサイルの在庫が余っていたそうです。巡航ミサイルというのは燃料がすぐ劣化するんですね。だから、劣化して駄目になる前に使わないと全部ムダになっちゃう。

実際にあの場所で化学兵器が使われたかどうかなんて、わからないんですよ。日本が積極的平和主義って言うんだったら、ああいうところにこそ自衛隊の部隊がPKOで行って検証したらいいん

ると。

それを、人を指さして、お前が悪い、社会が悪い、体制が悪いと。そういうことを言う時代は必ず腐敗するんです。そして結局は何も変えることができないまま終わる。

ただ、そのアラブの春も、結果どうなっていますか？ もう無茶苦茶でしょ。いろんな国でまた内戦が繰り広げられたり、政権崩壊後も戦闘が続いたり、完全に逆戻りしてしまった国もある。もう本当に無茶苦茶な状態ですよ。

世界は今、日本という戦国時代と同じなんです。その戦国時代を統一したのは豊臣秀吉ですが、秀吉が偉かったのは「刀狩」をしたことです。武器を供出させた。武器を買い取ったんです。それによって殺し合いや紛争が劇的に減った。

もうお分かりでしょう。今、世界でやるべきは、まさにこの「刀狩」なんです。特に小さい武器、小火器を狩らないといけない。今、それこそ何十億丁というカラシニコフとかM19という小銃が世界中に出回ってる。僕は途上国をあらちちら旅していますけれども、もう本当に沢山あるんです。とにかく、これに手を付けていく。

僕はカンボジアのPKOにも取材に行きましたけれど、カンボジアでもお金を出して刀狩をして、うまくいったんですよ。ですから同じようなことを全世界でやらなければいけない。

です。

化学兵器のあるところなんて危なくて行かれないって言う人がいるけど、何言ってるんですか！ 世界中で唯一本当の化学兵器と対処したことのあの、我が国の自衛隊ですよ。思い出してください。オウム真理教のサリン事件の時、霞が関の駅で自衛隊の化学防護部隊が出たじゃないですか。あれに世界中の軍事関係者は仰天したんです、日本軍は凄いなと。あの場で咄嗟に出てきてあれができるというのは本当に凄いなと。

あの時点で日本は、世界唯一の最強無比の化学兵器部隊を持っていたんです。あれ？ でも何のためにあんな部隊を持っていたんだらう——それが世界の軍事関係者の間では結構話題になったそうですけれども、僕もそう思いますけれど（笑）。

こういうことも、皆さん新聞やテレビを見ているだけじゃわからないでしょ。僕の講演の面白いところはこういう話をするからなんです。まあ軍事オタクですから、軍事を知らないという現場に行っただけに死にますから。

いつも言っているのは、軍事を知らずして平和を語れない、ということ。これは今日ぜひ覚えて帰ってください。



知っておいてください。これを知らないと本当に戦争に巻き込まれるんですよ。本当に大事ですよ、軍事を知るということは。僕がイラクに行った時のことを書いた本『イラク生残記』というのがありますが、そこには死にかけた時のこと、実体験が書いてあります。

いちばん難儀なのが旧社会党のような人たちですね。「憲法九条を守っていれば戦争はおきないんだよー」って。では憲法九条を守っていると、どうして戦争は起きないんでしょうか。憲法九条を守っていると拉致された同胞が帰ってくるのでしょうか。もう無茶苦茶ですね。

憲政ってというのは、まずは事実、現実をしつかりと見つめて、それから学ぶべきことは学ぼうという姿勢が大事だと思うんですよ。だから、皆さん、まず軍事について、もっともっと知ったほうがいい。

そしてもう少し自衛隊についても理解してあげてください。本当に彼ら彼女らはよくやっています。昔は石を投げられたと言いますけれども、こ

### ■軍事と憲政は表裏一体

今、自衛隊の日報が無くなったって騒いでいるでしょ。無くなった、不思議や不思議やと、国会議員も大マスコミも騒いでいる。軍事を知らないから騒いでいるんですよ。軍人というのは報告と記録があつて昇進するんです。命より大事なんですよ、あの日報は。

皆さんも子供のころから様々な戦記物語いっぱい読んだでしょ。大東亜戦争の時のことを書いて月刊誌で売れまくっている本があるわけですよ。ドキュメンタリーもすぐ出るでしょ。なんであんなこと出来るんですか。事細かな日報が全部残っているからですよ。何時何分〇〇より砲撃ありとか全部残っているからです。

そうでないと賞罰ができないじゃないですか。そんなもん残っていないわけがない。軍事のイロハのイ、それを書けばいいんですよ。僕は書いていますけれども。だから僕を呼んで朝日新聞なんかコメントさせればいいんですよ。記録の残っていない軍隊は軍隊ではないと。

皆さん、軍事とは何か、軍隊とは何かを、ぜひ

れだけの環境の中でよくやっているし、本当に強いんです。精強無比です。時々しょうもない失敗もしますけれども（苦笑）。

軍事を知り、自衛隊のことを理解することと、憲政を尊重することとは実は表裏一体、同じことなんです。憲法も大事だし、憲政も大事です。でもそれをただ唱えただけでは本当にそれをわかっていることにはなりません。

そうじゃなくて、日本の置かれている状況、世界の状況、そして軍事も含め世界がどう動いているかという現実をきちんと把握した上で、ちゃんとした憲政を進めていくというのが、僕は正しい道だと思っています。

ご清聴、ありがとうございました。（拍手）

## 【特別論文】

## 外務省医務官としての二十五年間

## — 邦人支援の現状と課題

仲本 光一

(外務省診療所長)

## (一) はじめに

本原稿の内容は所属する組織から資料提供を受けていますが、基本的には個人の見解であることを御了解ください。

オリジナル「外務省医務官としての二十五年間」は、鵬桜会報第五三号（弘前大学医学部医学科同窓会誌）に掲載いただいたのですが、今回許可を得て、加筆・修正させていただきました。弘前大学医学部鵬桜会理事長の西澤一治先生に改めてお礼申し上げます。

また今回、歴史ある尾崎行雄記念財団発行の「世界と議会」誌に当方の拙文を掲載いただけることになり、改めて財団理事の石田尊昭氏に感謝申し上げます。

## (二) 外務省入省の経緯とその後の取り組み

当方自身は神奈川県川崎市出身です。横浜の聖光学院中・高等学校を卒業後、弘前大学医学部には一九七六年から一九八二年までお世話になりました。医学部時代は、勉強よりもジャズ研での演奏活動、西弘や鍛冶町での飲み会にもつばら精を出す劣等生

でした。卒業後は、横浜市立大学医学部の第二外科（現在の消化器・腫瘍外科）でお世話になり、十年ほど神奈川県内の病院で消化器外科医として勤務しておりました。外科医の仕事はたいへん面白く、やりがいもありました。腹腔鏡手術の黎明期でもありましたが、開腹手術がメインの時代であり、最後はPD（臍頭十二指腸切除術）も術者として経験し、胃切除術では後輩の前立もやらせていただきました。

外科医としての未練はあったのですが、一方でこのまま一生国内の狭い世界で生きていくことに疑問を持つっており、世界に飛び出したいという漠然とした夢がありました。しかしながら留学をめざすほどの勉強熱心な医師でもなく、また既に配偶者や子供もいましたので、国境なき医師団のようなボランティア・NPO医師としての渡航は選択肢にはありませんでした。

そんな中、たまたま横浜市大の外科医局の先輩が外務省医務官としてケニアに勤務しているとの話を聞きました。ケニアに国際電話をかけて外務省医務官という仕事について問い合わせたところ、たいへん面白

い仕事である」とのこと。また、同行されている奥様からも「ケニアでの生活をエンジョイしている」との回答を得ました。そこで、家内に相談したところ、外国語ができるわけでもない家内でしたが、意外にも二つ返事で了承を得られました。

外務省では定期的に医務官を募集しており、それに応募し、面接を経て、合格をいただきました。面接を受けた時点では公立病院に勤務しておりましたので、大学医局にも説明し、年度末で退職することをお願いしました。外務省から何度か赴任地についてオフアールがあったのですが、マッチングがうまくいかず、実際に任地が決まったのは、面接から半年以上が過ぎた時点であり、最初の任地に指定されたのはミャンマーでした。

たまたま在ミャンマー日本国大使館の公使が自分の務めていた公立病院で検診を受けるという幸運があり、公使夫妻からいろいろと情報をお聞きすることができました。また、赴任までの期間は、あわてて英語学校に通うなど、付け焼き刃ですが準備をいたしま



した。前任の医務官は既に退職していたため、東京で一時間ほど申し送りを受けただけでした。外務省に十月一日に入省して、地域課・福利厚生室で手続きを行い、二週間後には、ミャンマーに家族とともに渡航する、という状況でした。(ちなみに、現在は、マラリア研修など、みっちり赴任前研修を受けていただいてから赴任してもらっています。)

ミャンマーは今でこそアジア最後のフロンティアとして注目され、邦人企業も多数進出していますが、赴任当時は軍事政権で米国から厳しい経済制裁を受けている時代であり、たいへん貧しく、また邦人数は百人しかいませんでした。医療事情も悪く、邦人が安心して利用できる病院は皆無であり、簡単な血液検査・心電図計・超音波検査機器しか設置しない大使館医務室が一番設備が整っているくらいでした。敬虔な仏教徒が多く、性格も温厚であり、古き良き日本のイメージを想起させました。当時、邦人医師は医務官一人でしたので、現地事情を勘案し、大使館も現地邦人の医務室利用を容認していました。自分自身、まだ若

次の任地は、インドネシアでした。ミャンマーに比べれば首都は大都会であり、経済発展も著しい状況でした。日本の医学部を卒業したインドネシア人医師も多く、邦人に対する治療にも関わっていました。

長期政権を誇っていたスハルト大統領でしたが、経済危機を契機に政治的混乱が生じ、また中華系移民に対する排斥運動なども生じ、治安が不安定になりました。選挙前に大暴動が発生するのではないかと懸念、また日本人学校の生徒が道路の封鎖のために帰宅できず一晩学校に留まるという事例が発生し、一万人いる在留邦人を国外に脱出させるべし、という日本政府の方針が決まりました。

邦人は、大使館前のホテルに自主的に集合し、その後ホテルからはチャーターしたバスで空港にピストン輸送、チャーターしたJAL、ANAの臨時便に乗ってもらおうという空前の脱出オペレーションが実施されました。私自身は、ちょうど帰国中だったので、急遽ジャカルタに戻り、空港に設置された大使館臨時事務所に詰めることになりました。

輩の医師でしたが、思えば在留邦人の皆様に信頼され、育てられ、医師として一人前になっていったと感謝しております。



ミャンマー、毎朝の托鉢風景

ちなみに、この時期にインドネシアに渡航される方はほとんどおらず、JALのジャンボジェットがほとんど空でした。ジャカルタのスカルノハッタ空港に設置された臨時大使館事務所(机)では、急遽着の身着のまま脱出してくる邦人のために、渡航証明書を発行し、場合によっては現金をお貸しして、帰国の手続きのお手伝いをしました。数千人の邦人ですので、空港では長時間雑魚寝状態で待機せざるを得ない状態でした。その中には体調を崩される方もおり、当方は、空港の別室で点滴などの医療対応も行いました。まさに超法規的処置でした。

結果として一万人近い邦人は無事脱出し、また幸いにもその後、心配された大暴動は発生せず、数ヶ月後には多くの邦人はインドネシアに戻ることができました。こうした治安の不安定さも影響して、メンタル不全の症例を多く経験しました。

邦人の中に、特に夫人の中に臨床心理士の資格をお持ちの方々が出て、在留邦人支援のNPOを立ち上げるといったことになり、当方も積極的に関わることに

たしました。ジャカルタ・カウンセリングというNPOです。大使館の医務室に定期的に集まり、邦人からの相談対応につき協議しました。これを契機に、元々外科医であり、精神科には遠いところにいる自分でしたが、多くの精神科研修を内外で受けさせていただきました。



総選挙前のジャカルタ

した。

愛媛県から来られて羽田空港に集合されたご家族に出発前に面談し、ご挨拶させていただきました。その後、結果として一年間に四回、計一ヶ月以上、ご家族のホノルル渡航に同行し、お世話係をさせていただきました。当初は事情がわからず、米国への怒り、日本政府への怒り等々、混乱されていたご家族でしたが、途中からは我々を信頼していただき、ホノルルでは毎晩夕食を一緒にさせていただくような関係になりました。

ご家族の強い希望により（補償よりご遺体との対面が重要との強いご希望）、海底に沈んだ「えひめ丸」を浅瀬に引き上げてご遺体を回収、ご遺体は司法により検視が行われましたが、当方が最初にご遺体を確認、ご家族の対面の際に説明する役割を担当しました。

えひめ丸事故一年後には、事故現場を見渡すことのできるホノルルのカカオカ・ウォーターフロントパークに記念碑が作られ、米国側、愛媛県側、日本政府、ご家族、事故で助かった生徒達も参加した慰霊祭が行

次の任地は東京でした。基本的な任務は霞ヶ関にある外務省の中にいて、医務官情報のもとめを行うことでした。「世界の医療事情」が初めて、この時点では書籍として纏められ、全国の図書館等に配付されました。この「世界の医療事情」は、現在は外務省内のホームページに掲載され、日々更新されています。

※世界の医療事情

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>

二〇〇一年二月には「えひめ丸海難事故」が発生しました。これは愛媛県宇和島水産高校の練習船がハワイ沖で急浮上してきた米国潜水艦と衝突して沈没、生徒四名を含む九名が亡くなるという痛ましい事故でした。土曜日に事故が発生、多数の邦人被害が出ているということで、ご家族がハワイを訪問することになりました。外務省は、かけつけるご家族のお世話・現地調整の役割のため本省から人を派遣、その中に医師も、という要請があり、当方が出張することになりました。

われました。なお、えひめ丸引き上げ作業の真っ最中に「9・11米国同時多発テロ」が発生しています。このため、ご家族は、引き上げ作業が中断されるのではないかと懸念したのですが、実際は一日中止したのみで作業が再開されたことも、ご家族の米国に対する不信任感が払拭された一因になったと思います。

なお、この一年間にわたるご家族支援活動、さらにはその後「ご家族対応についての領事向けマニュアル」作成作業などが評価され、当時の外務大臣である川口順子大臣から、第一回川口賞（個人賞）をいただく、という栄誉を得ました。自分自身、外務省員としての生活継続・モチベーション維持の面で大きな励みになりました。

次の任地はインドでした。大使館のあるニューデリーでの勤務です。インドは経済発展著しく、また医療ツーリズムの走りであり、心臓バイパス手術件数世界一など一部最先端医療も行われていました。実際、医師は英国で研鑽を積んでおり、職員子女の膝の手術を関節鏡で実施してもらった例などもありました。しか





第一回川口賞授賞式（前列中央川口大臣の右側が筆者）

し問題は、術後管理をする看護師以下医療スタッフのレベルの低さでした。

もとよりインドは感染症大国であり、熱帯病の宝庫です。消化器外科医が日本人のバックパッカーに虫垂炎の手術を腹腔鏡で行ったケースがありました。手術は全く問題無く行われたはずでしたが、縫合部位が感染を起し、結果、開腹してドレナージ（排膿）することになりました。しかし、その後も手術部位の感染は続き、結果として日本に移送される、となったケースがありました。これも、おそらく傷を消毒する看護師（看護師でないケースもあり）、そうした術後処置が悪かったのも一つの原因ではないかと思っています。

その後ですが、執刀した外科医は、手術は完璧なのに、どうして日本人だけこういうことになってしまったらう、という疑問を述べていました。術後管理の問題もあるかもしれませんが、実は、日本人若者の免疫力の低さ、にあるとも思っています。五歳までの死亡率（一〇〇人中）は日本の三人に対し、インドは

五十六人です。日本は清潔な国になり、それこそA型肝炎や麻疹などの多くの感染症が駆逐されましたが、その分、若い人には肉体的な免疫、麻薬にはまるバックパッカーも見ていると精神的な面での免疫も備わっていないのだと痛感したと思います。なお、邦人保護案件では、麻薬による錯乱で官憲から大使館に連絡が入り、その保護を行うケースが多かったことも、追記しておきます。

インド勤務の次は在ニューヨーク総領事館でした。9・11米国同時多発テロが発生したニューヨークでは、大規模災害・テロ事案発生時には、邦人は災害弱者である」という意識が共有され、総領事館を中心とした連携を強化すべき、との認識が高まっていました。

当時、米国日本人医師会会長であったコロンビア大学循環器内科の本間俊一教授の提案もあり、在留ニューヨーク邦人、あるいは米国の邦人医療関係者のネットワークを作ろうという話になり、それが邦人医療支援ネットワーク（ジャムズネット）の設立につながり、

当方も協力させていただきました。

在留ベースでも六万人いる日本人でしたので、医師・看護師・心理士・アートセラピスト・カウンセラーといった職業をお持ちの邦人も多数いて、それぞれ各自で活動しておりましたので、そこにさらに医療関係者、教育・福祉関係者、患者団体なども合流していただきネットワークができあがり、総領事館で第一回の会合を行ったのが二〇〇五年五月でした。

最終的に二十四団体が定期的に集まる会合になりましたが、集まるだけではもったいない、ということから、一般向けの啓蒙活動を共同で始めました。ちょうど、ニューヨーク日系人会が敬老の日に併せて行っていたイベントがあり、その時期に、シニアウィークと称して、医療関連情報を提供する場を設けさせていただきました。またセントラルパークで始まったジャパネーデーのお祭りでもジャムズネットとしてブースを出し、一般向け健康チェックなどを行いました。こうした活動がたいへん評判よく、日系人会でのシニアウィーク（現在は一ヶ月以上にわたり開催されるよう





渡辺貞夫さんと筆者

通常の疾患ではまず家庭医を受診する必要があります。予約が空いていれば数日以内に予約がとれますが、休暇シーズンなどは予約がとれないこともあります。家庭医を受診できず救急外来（ER）を受診する

になりシニア・マンスとなっています）、春にはヘルスイークも開催されるようになり、十年続いています。

※ジャムズネット <http://jamsnet.org/>  
 ※ジャムズネット東京 <http://jamsnetkyo.org/>

ニューヨークの次は、アフリカのタンザニアです。たいへん自然に恵まれた地域であり、サファリツアーなど楽しませていただきました。驚いたことに日本からキリマンジャロツアーに来られる邦人が少なくなく、その中には、高山病で亡くなる方もいて、事後の対応などにあたりました。マラリアを含め感染症の蔓延する地域でもあり、実際に当方の娘がデング熱になるなどの洗礼を受けました。アフリカの中でも政治的には安定しており、治安もまずまず良かったかと思えます。

タンザニア勤務の最後に、忘れられない出来事がありました。大学時代ジャズ研に所属していた事は述べましたが、当時からあこがれのスーパースター、渡辺

貞夫さんと親しく接する幸運に恵まれました。渡辺貞夫さんが来られたのは演奏が目的ではなく、ご友人の緒方貞子さん（当時のJICA総裁）の依頼により、アフリカでの日本の協力現場を視察することでした。JICA他大使館職員もアテンドすることになったのですが、当方が真っ先に手を挙げ、滞在中のお世話、現地タンザニアのバンドとの共演などをアレンジさせていただきました。本当に気さくな方で、いつもサックスを持参し、その地域の風・子供達の声に自然に反応して、どこでも演奏を始めてしまうパワーには驚かされました。一緒に過ごさせていただいた数日間、私の生涯の宝物になりました。

タンザニアの次はカナダのオタワでした。三月の移動でしたが気温差五〇度以上の転勤先でした。カナダは米国同様医療先進国でしたが、そのシステムは全く異なるものでした。欧州型でもあり、国民皆保険のもと、基本的に医療費は無料でしたが、その代わり、待ち時間が異常に長い状況でした。



いきなり演奏を始め、子供達に囲まれる渡辺貞夫さん

場合には、単純骨折程度であれば五、六時間待たされることを覚悟する必要があります。救急外来では看護師によりトリアージが整然と行われており、重症度の順で診てもらえます。

家庭医を受診した場合でも、さらに専門医の受診が必要になると、例えば整形外科疾患で大腿骨頭置換術が必要な場合、専門医受診まで半年、さらに手術が行われるまで半年待たされるケースもあります。こうした例は大げさではなく、毎年フレーザー研究所から州別、専門科別待ち時間（週）表が発表されています。（※図1）

日本人には到底信じられない待ち時間の長さです。実際、オタワから米国国境までは車で一時間程度であり、早く専門医に診てもらいたければ、米国の病院をその日のうちに受診でき、治療してもらえます。しかし、そんなことをするのは我々日本人くらいであり、カナダ人は、べらぼうに高額な医療費を払うことになる米国にはまず行きません。米国、カナダ、日本、と医療制度の異なる先進三カ国を経験し、さて、

日本はどちらに進むべきか、考えさせられました。

カナダはたいへん住みやすい国でしたが、三年の勤務を終え、本省、霞ヶ関勤務となりました。外務省診療所の医師として働いていますが、仕事の多くは世界中に約百人いる医務官のまとめ役、バックアップ、人事などです。また、近年多発するテロ・大規模災害などの緊急派遣チームとして医務官も指名されることになり、当方がその筆頭を務めています。

二〇一六年七月バングレラデシユのダッカで発生したテロ事案では、発生直後に当方自身が出張し、被害者ご家族対応にあたりました。国内では、大学や検疫所他一般の方からも多くのご依頼があり、海外赴任・留学のための健康講演などを一般向けにさせていただいています。ダッカのテロ事案以後は、加えてテロ・安全対策についてもお話しするようにしています。全

## Waiting Your Turn

Canadian Wait Times in 2016 Longest Ever Recorded

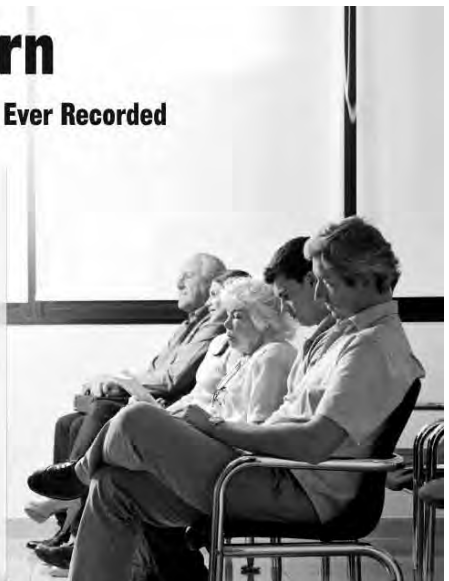
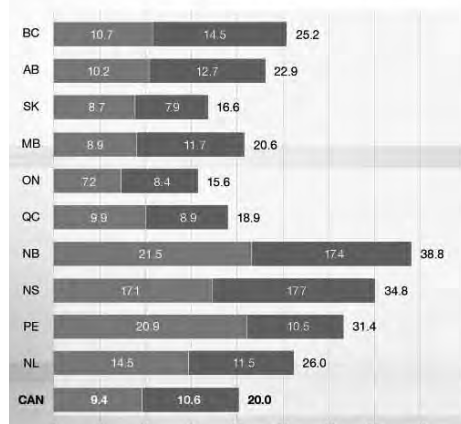


図1：カナダにおける医療アクセス待ち時間（フレーザー研究所2016年度）  
<https://www.fraserinstitute.org/file/waiting-your-turn-wait-times-for-health-care-in-canada-2016-infographic.jpg>

国、どこからでもご依頼があれば、公務として出張させていただきます。

### (三) 「外務省医務官」とは

外務省における医務官制度は、大正十年にペストが発生したニコリスク（ロシア）、大正十二年にウラジオストクに嘱託医が派遣されたのが始まりで、戦後は昭和三十八年に在外公館への医師派遣が再開され、在ナイジェリア日本国大使館に医務官が派遣されるところとなりました。以後、年に一〜五名の医務官が在外公館に新規配属され、現在に至っています。

外務省医務官は原則として、開発途上国にある大使館あるいは総領事館に勤務し、健康管理医として、担当地域に勤務する公館職員とその家族の健康管理にあたっています。平成三十年五月末現在、医務官は一〇四の在外公館において一〇七名が配属されています。本省の六名の医師を加え、外務省全体として一〇〇名余の外務省医療職が在籍しています。平成三十年五月末現在の医務官配置公館は図2の通りで、



世界の医療事情」ホームページに公開しています。今後、医務官にとってますます重要になってくると思われる任務として、新興・再興感染症分野における役割が挙げられます。地球規模での経済発展並びに航空機による迅速な移動に伴い、局所に収まっていた風土病・感染性疾患が全世界で流行する危険性が高まっております、事実、ここ数年でSARS、MERS、新型インフルエンザ、ジカ熱、デング熱、チクングニア熱、エボラ熱等を経験しました。

医務官は、現地紙や現地職員情報など非公式な情報から早期に異常事態に気付き、正式に公表される前に、現地保健省、現地WHO事務所や欧米諸国医務官などに確認を行い、その情報は、外務省海外安全情報、スポット情報として一般に公開され、日本政府としての迅速かつ正確な対処方針に有益に利用されています。

医務官も海外緊急展開チーム(Emergency Response Team、以下ERT)の一員としての役割も期待されています。邦人海外渡航者は年々増え、さ

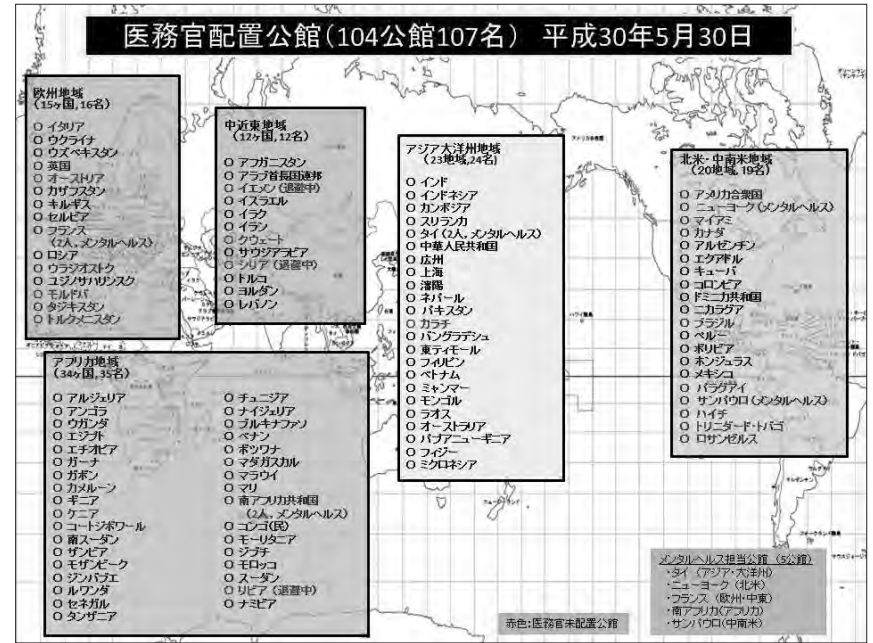


図2：医務官配置公館（2018年5月末現在）

## 外務省医務官の職務

1. 外務省員(館員・家族)の保健相談, 日常的診療。
2. 現地医療情報の収集, 医療情報の報告, 発信, 現地邦人向けの広報, 講演会の実施。
3. 在留邦人・邦人旅行者への保健相談。
4. 緊急事態(大規模災害・テロ等)における邦人ケア, 初期治療。被災邦人・家族・遺族ケア。

※2017年より、医務官もERT(Emergency Response Team)の一員として派遣。第一例、バングラデシュ・ダッカテロ事案。

プライマリーケア(総合診療)  
産業医  
感染症(熱帯病)  
メンタルヘルスケア(精神科)  
災害医療・事態対処医療  
法医学(DVI)

図3：医務官の役割

各公館には、原則、医務官一名が配属されています。医務官の主な業務内容を図3に示します。医務官は外交官として派遣され、一公館当たりの任期はおおよそ二〜三年です。基本は医療関連業務ですが、大使館職員の一員として事務業務を行うことも多くあります。

医療業務は、公館内にある医務室で行われます。医務室には医薬品や任地の医療事情に応じて各種医療機器が配備されています。しかし医務室での医療対応には限界があり、邦人が精密検査を受ける必要がある場合や、入院治療が必要な状況など、現地病院にお世話になる機会は多くあります。

従って、多くの邦人が滞在する地域にある現地病院情報の収集は重要であり、定期的に現地病院視察を行っています。専門医の種類、可能な検査の種類、また検査や滅菌などは清潔に且つ安全に行われているか、さらに、医療経費や医療費支払い方法など調査する項目は幅広くあり、その情報は、先にご紹介した「世



## 海外安全アプリ、たびレジ 外務省領事局制作



<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

図4：「たびレジ」

らに在留邦人が増加するにつれて、邦人が海外で大規模災害に遭遇することやテロ事件に巻き込まれる事例が増加しています。

平成二十五年一月、在アルジェリア邦人に対するテロ事件が発生し、それを受け、同年八月領事局が中心となって外務省内にERTが設置されました。テロ事件や大規模自然災害などの海外での緊急事態発生の際に、ERTは速やかに現地に駆けつけ、邦人援護等の緊急事態対応を行います。第一回目の医務官派遣として、当方自身が一昨年七月に発生したダッカテロ事案直後に現地に派遣され、被害者・ご家族対応をさせていただきました。

### (四) 邦人支援の現状と課題

外務省の海外在留邦人数統計※によれば、平成二十九年十月一日現在、海外在留邦人数は一三五万一九七〇人であり、過去最多になっていきます。また日本政府観光局※によれば、海外渡航邦人数（出国者数）は平成二十九年度が一七八九万人であ

り、こちらも過去最多になっています。

外務省において邦人保護は主として領事局が担当していますが、領事局では、三百六十五日二十四時間、世界のニュースをモニタリングしています。A国で地震発生、B国でバス事故発生、あるいはC国でテロが発生といったニュースが入ると、すぐさま、その地域の在外公館（大使館・総領事館）の領事担当官に事実確認を行います。

邦人の安否確認が第一であり、在外公館では負傷者対応、本国家族への連絡、あるいはプレス対応などを行い、脅威が継続的になる可能性がある場合には、在留邦人や渡航者に対して、メールやホームページを通じて注意喚起を行っています。本省は、在外公館からの情報を確認して、官邸に報告、また外務省のホームページ、海外安全ホームページにおいて情報発信を行います。

渡航者・在留邦人に対する邦人援護事例は毎年統計として発表されています。件数では一万八千件、人数にすると約二万人の方の相談に毎年応じています。援

護件数の内訳としては、所在調査や遺失物の相談が半数を占めますが、傷病や事故災害、精神障害、傷害・暴行被害など、医療案件も少なくありません。毎年三百人以上の方が負傷し、五百人以上の方が海外で亡くなっています。

近年は大規模災害・テロによる邦人被害も増えており、外務省としては可能な限りの支援を行っています。情報提供が第一であり、「たびレジ」(図4)などのアプリを作成し、渡航者への登録を推奨しています。外務省医務官も、前述のように、邦人援護事案において医療的な支援を行う場面が増えてきました。邦人退避等の事態に備えて、最近では防衛省との合同訓練なども開始しています。

※海外在留邦人数調査統計

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/page22\\_000043.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/page22_000043.html)

※日本政府観光局データ

[https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor\\_trends/](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/)

## 邦人支援, 他における今後の課題

これまでやってきた事

- 医療情報提供, 日・外国語版資料作成配布
- 医務官の邦人支援推進, ERT参加他
- 邦人支援NPO支援・設立
- 防衛省・厚労省との連携
- 大学との連携(東京大学医科研他)

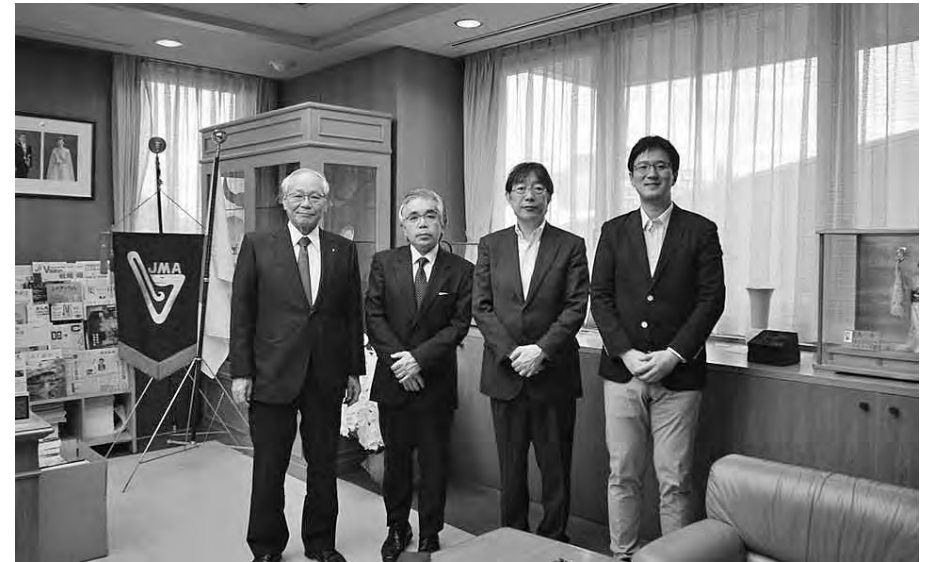
今後更に進める必要がある事

- 省庁間協力, 官民・企業協力
- 遠隔医療の利用, AIの活用
- 健康格差解消のための日本のリーダーシップ推進
- 感染症対策のための日本のリーダーシップ推進
- ワンヘルスアプローチの日本のリーダーシップ推進



図5：邦人支援、他における今後の課題

して、対談させて頂きました。今後、さらなる協力体制を作っていきたいと考えております。最後に、まとめとして、邦人支援、他における今後



日本医師会・世界医師会長との対談(2017年12月16日)「世界医師会長、外務省医務官、JAMSNET それぞれの立場からグローバルヘルスへの貢献を考える」 <https://medicalnote.jp/contents/171213-001-RN>

しかし、官のみでは、特に医療支援は十分とはいえず、民との協力が必要になります。民間団体との連携の取り組みですが、この代表が先にご紹介した邦人医療支援ネットワーク(ジャムズネット)です。最初に設立されたのはニューヨークですが、次に東京にも設立され、外務省からは佐藤正久副大臣をはじめ、領事局長、領事局政策課長も参加いただいています。その後、さらにアジア、カナダ、ドイツにも広がり、現在、参加メンバー数百人に及ぶネットワークができあがっています。

ジャムズネットはさまざまな繋ぎ役を行っています。医療他専門家の情報を一般の方に平易な形で繋ぐ。世界各地にある自助団体同士を繋ぐ。そしてオーストラリア、日本として官民学を繋ぐ等々です。昨年、日本医師会長の横倉義武先生が世界医師会長に就任されました。海外の医療事情をお知りになりたいという要望をいただき、外務省医務官代表として当方、ジャムズネット東京代表として古閑比斗志理事長、そして仲介役としてメディカルノート社の井上祥医師が参加

の課題を整理しました。これまでさまざまな努力をしてきましたが、今後はさらに省庁間協力や官民・企業の協力、そして遠隔医療やAIの活用をしていく必要があると考えています。さらに、政府が推し進めている、健康格差解消、感染症対策、ワンヘルスについても、ご協力していきたいと思っています。(図5)

### (五) おわりに

医務官として二十五年間経験させていただき、医師として、人として大変貴重な経験をさせていただきました。世界中で勤務させていただいていますが、自身あるいは同行する家族が、その国でいやな思いをしたことはほとんどありません。

もちろん発展途上国のみならず、先進国でさえも、日本とはシステムや慣習が異なることから不便なことも多く、ストレスフルな経験は山ほどあります。しかし、一様に、現地の皆様は我々に対して非常に親切です。それは我々が外交官だからという理由ではないと思います。過去その国に滞在し、現地の皆様と生活

を一緒にされていた多くの日本人先達が立派な行いをしており、現地の人たちに感謝されていた事がその理由であると理解しています。

何百年も前から海外で活躍される日本人先達に感謝するとともに、少なくとも、その先達の評判を落とさないように努力していくことが必要だと日々痛感しています。我々は一定期間滞在する「旅人」ですが、長く滞在・永住する日本人の皆様に医療他の面でも支援をしていくことが、自分の使命であると感じています。

邦人医療支援ネットワーク（ジャムズネット）の立ち上げもその一つであり、官民協同して、在外日本人の皆様を支援していくことが、ひいては世界の人々を支援していくことに繋がるものと考えています。

#### （六）参考——外務省医務官になるには

医務官募集については、現職医務官の退職等により欠員が生じた場合に欠員分のみ公募され、通常、外務省ホームページ上に「外務公務員医療職募集」として

掲載されます。選考は、書類審査、筆記試験（小論文並びに英文和訳）さらに面接によって選考されます。是非、後輩諸君も、世界に飛び出していたいただきたいと思っております。お待ちしています！

（了）

○在外公館医務官募集に関する問い合わせ先

〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1  
外務省 福利厚生室 医務官班  
電話 03-5501-8000（内線3812）

○「ジャムズネット東京」も協力者を募集しています。

下記までご連絡ください。  
ホームページ <http://jamsnettokyo.org/>  
連絡先アドレス [info@jamsnettokyo.org](mailto:info@jamsnettokyo.org)

## 連載

10

# 『尾崎行雄伝』

（沢田謙著、一九六一年）

## 第十章 亡命の客

尾崎を乗せた北京丸は、明治二十一年一月三十一日に横浜を出帆して、いま太平洋を西南へ、西南へと走りつつあった。

人生というのは、何が幸せになるかわからぬものだ。保安条例で追放の刑をうけたのは、災厄にはちがいがなかったが、彼がこうして洋行できたのは、全くこのおかげだった。ずっと前から彼は、西洋文明のありさまを見たいと思っていたが、もしこの事件が起こらなかつたら、彼のような貧乏書生には、逆立ちしても洋行費を調達できるはずがなかった。

実をいうと、犬養はすでに洋行するつもりで、朝吹等の尽力により、洋行費を準備していた。そこに突然、尾崎が追放命令をうけたので、「あいつはかわいそうだ。尾崎にゆずってやれ」と、朝吹が犬養を説いて、尾崎の洋行費に振り替えたのであった。そのとき尾崎は何も知らなかったが、実はそうした友人たちの、並々ならぬ同情によるものであった。

それに彼と共に重刑に処せられた星亨は、彼が慶応にいたころから、すでに有名な人物であったし、林有造もまた、維新当初から、尾崎などが足もとにもよれぬ経歴と名声をもっていた。ところが保安条例で、尾



崎・林・星の三人が並んで、最も重い刑に処せられたので、世間では、まだ三十歳前の尾崎をよほど偉いもののように思い、これら二大先輩と同格にあつかうようになった。それが彼のその後の活動に便益を与えたことは、非常なものであった。

航海は、はじめ一週間ばかりは大嵐で、波が甲板にあがるほどだったが、そのうち波が静まると、尾崎は船室にもつて、読書や執筆にふけるようになった。熱中すると、食堂にも出ないで、机にかじりついている。何も知らぬ船客たちの間では、「あの紳士は、よほどベッドが恋しいと見える」と、たちまち「睡眠



洋行中の尾崎——保安条例で祖国を追われた彼は、ロンドンの客舎で、民主政治の研究に余念がなかった。

先輩・友人からうけた恩と讐を、もれなく記していたのであった。

ところが、こうして「恩讐録」が海に流されたと同時に、彼の心境がかわった。「恩讐ふたつながら報いるというのは、小人の事である。いやしくも大人物たらんとするものは、もっと高尚な考えを持たねばならぬ。恩はきつとおぼえておいても、讐はすべて忘れてしまふのが、大人君子の心がけであらねばならぬ」——それ以来、恩讐録をやめてしまった。

さて、尾崎はしばらく太平洋岸を視察したのち、ニューヨークやワシントンに行き、国会も傍聴して、アメリカの政治や経済、産業などを研究した。それから大西洋をわたってイギリスに着くと、ひとまずロンドンに腰をおちつけることにした。イギリスこそは「憲政の祖国」として、彼のもっとも意を注いで研究しようとしていた国であった。

年がかわって明治二十二年。「二月十一日の紀元節のよき日に、いよいよ帝国憲法が發布される」というめでたい報せが来た。

彼は感慨無量だった。思えば、民選議院設立の建白

紳士」の名が高くなった。ところが事情がわかると、ほどなく「執筆紳士」の名にかわった。

十九日の航海をへて、船はサンフランシスコに着いた。ながい船旅にあきあきした船客たちが、いそいそと上陸の支度をしていると、下等船客の中に天然痘患者が出たため、船は二週間の停船を命ぜられたのだ。しかも検疫期間中に、またまた新患者が出るという始末で、結局上等船客だけは、港内の小蒸気船内へ隔離されることになった。

すると突然、ものすごい大嵐で、小蒸気船は、木の葉のごとく弄ばれ、ついに錨綱が切れ、岸に吹きつけられてしまった。「ヤツ、これは大変だ」と、尾崎はとつさに、二メートルばかり高いところから波止場にとびおりた。

荷物はむろん全部流されてしまった。持ち物は、口にくわえたタバコだけ、まったく着のみ着のままであった。それはやむをえぬとして、このとき海に流された荷物のなかに「恩讐録」というノートが入っていた。

それは彼が少年のころ、十八史略を読んだ中に、誰のことであったか「彼は恩と讐を、細大となくかならず報いた」と書いてあったのに感心して、何年となく、

以来、ここに十四年、国会開設の大詔から数えて八年目に、彼等が悪戦苦闘してきた立憲政治が、いよいよ始まるのだ。そう思うと、追われて異国にある身にも、感激はひとしおであった。

まことに憲法発布こそは、日本の民主政治史上、画期的な出来事であった。ここで我らはしばらく、この憲法起草に心血を注いだ伊藤博文のことを語らなければならぬ。

伊藤は天保十二年（一八四一年）、長州の束荷村（つかりむら）に生まれ、幼名を利助といった。小さい時は体が弱く、いつも青い顔をしているので「利助のひょうたん、青びょうたん。お酒を飲んで赤うなれ」とはやし立てられた。

が、体は弱くても、気性はめっぽう強かった。昼のうちには、がき大将であばれまわり、夜になると、手習草紙に人の形を書いて「これが太閤秀吉だ」といばっていた。

そのうち父が萩の城下に出て、足輕奉公をするようになり、彼も武家の若党に住み込んだが、時は幕末の風雲急なるころだった。異国船の襲来に備えて、長州

藩でも、三浦半島に海岸警備隊を出すことに決まった。彼はさっそくその陣屋詰めを志願した。

「でも陣屋詰めといえは、誰でもいやがるというのに」と父が言うと、彼は答えた。「だからこそ行きたいのです。人のいやがることを進んで引き受けるくらいでなくちゃ、とても大事業はなせぬと思います」

こうして伊藤は宮田の陣屋詰めとなり、ここで隊長の来原良蔵に、みっちり仕込まれたことが、彼の出世の糸口となるのである。来原は当時、桂小五郎（木戸孝允）と並ぶ、長州藩の傑物であった。そのついで、伊藤は陣屋詰めを終えると、松下村塾に入り、吉田松陰の指導をうけることになった。彼の志士活動はここに始まる。

当時、攘夷運動の急先鋒は長州藩であった。文久二年十二月、幕府の肝を冷やした、御殿山の外国公使館焼き討ちも、高杉晋作を首領とする、血気な若者たちのしわざで、伊藤もその放火犯の一味だった。そのうち伊藤は、井上聞多（井上馨）、山尾庸三、遠藤謹助、野村弥吉の四人とともに、表面は脱藩の形で、実は藩から洋行費をもらって、イギリスに留学することになった。

つたものの、<sup>ちよんまつ</sup>丁髷はとつくの昔に切っている。やむなくポルトガル人に化けて外人ホテルに泊まりこみ、まづ通訳官アーネスト・サトウの紹介で、イギリス公使に談判をはじめた。

公使もはじめは相手にしなかったが、二青年の熱意に動かされて、「では、君たちが藩政府にかけあう間、砲撃を猶予してやろう」ということになった。

こうして二人は、やっと山口に潜入したのであるが、身分の軽い伊藤は、正式の会議には参加できないので、お側役をつとめた井上、藩公の御前会議に出席して、一世一代の大雄弁をふるうことになった。が、藩の重役たちは「攘夷は勅命によって実行したものである。たとえ防長二州が焦土と化そうとも、最後まで戦わねばならぬ」と言い張ってきかない。

せっかく祖国の滅亡を救おうと、はるばるイギリスから飛んで帰ったのと思うと、二人は泣いても泣ききれぬ思いだった。

が、こうなつてはやむをえぬ。ついに四国連合艦隊の下関砲撃となったのである。その結果はあまりにもみじめだった。海岸をかためていた四つの砲台は、た

上陸第一歩、西洋文明の盛んな光景をながめて、彼等がともに感じたことは、「これじゃあいくら攘夷、攘夷とさわいでも、ごまめの歯ぎしりだ。これから僕らも、うんと勉強して、日本の国をこれにおとらぬ文明国にせねばならぬ」ということだった。

ところが辞書を引きひき、やっと新聞がよめるようになったところ、伊藤が突然「ヤッ大変だ！ 困ったことが起つたぞ」と叫んだ。

伊藤のつきつける新聞を見ると、「下関で長州藩が、外国船に無法な砲撃をくわえたため、イギリス、アメリカ、フランス、オランダの四国連合艦隊が、長州藩を攻めることになった」というのだった。

なるほどこれは大変だ。イギリス一国でさえ、とてもかなわぬと思っているのに、四国連合艦隊とあつては、とても敵対できるものではない。「こうなつては、ロンドンなんか閉々としてはおられん。せっかく海軍を研究して帰つても、祖国がほろんでしまったんじや、何にもならぬ」

結局、伊藤と井上とが急いで日本に帰り、藩政府にかけあつて、攘夷の方針をあらためさせ、四国と和睦をさせることになった。ところが、やっと横浜まで帰

つた一日で撃破され、翌日は、敵の陸戦隊が下関に上陸して、山口へ進撃の態勢をとる始末。そこで藩論が一変し、高杉晋作を正使とし、和議の談判をひらくことになった。

「言わんこっちゃない！」つむじを曲げた伊藤と井上は「きのうまでは、藩国が焦土と化すとも、あくまで抗戦するといばつていながら、たつた一戦に破れると、すぐ和議とは何事ですか。そんな意気地なしの使者はまっぴらです」とだだをこねたが、結局伊藤も井上も、通訳という名義で、和議の使者に立つことになった。

こうして、どうにか長州藩の面目をつぶさぬ条件で、講和を結ぶことができたのは、まったく二人のはたらきであった。当時、攘夷を勤王運動の万能薬のように心得ていた志士の間にあつて、伊藤と井上とが、進歩主義者として頭角をあらわしたのは、これからである。

やがて王政復古の大号令が発せられ、京都に新政府ができること、伊藤はさっそく兵庫県知事に任命された。当時、兵庫はうるさい外交事件の焦点だったので、「やっぱり外交のことはあいつにかぎる」と見込まれたの

であった。こうなると、たとえ一年たらずでも、西洋の空気を吸ってきたのは大きな強みであった。

こうして伊藤は明治二年、東京の中央政府に召されると、大隈と組んで「築地の梁山泊」に立てこもり、さかんに文明開化の政策を推進することになった。そして明治四年、岩倉大使の一行が、欧米巡歴の旅に出かけた時は、伊藤も副使として、これに加わった。

それはすでに述べた通りであるが、帰朝そうそう征韓論が破裂して、西郷らが野に下り、政権が大久保の手に帰すると、伊藤は大隈とともに、大久保の無二の股肱として、ようやく廟堂に重きをなすにいたったのである。

ところが明治十一年、内閣の巨柱だった大久保が、紀尾井坂で暗殺されてしまったのだ。木戸は前年すでに病死し、西郷もまた城山の露と消えた。こうして維新の三傑が、ほとんど時を同じくして世を去ったのである。

ああ、いかになりゆく日本の行く末であろうか。伊藤が門をとじて、ひとり考えにふけていると、突然そこに飛びこんできたのが、友人の安場保和だった。

「なんだ、ひどくけちな顔をしてるじゃないか」「け

い放った。

伊藤がはたして、軍門にくだったかほとんどかく、当時の薩長藩閥としては、伊藤を推したてるほかに、大隈と対抗できる人物はいなかったのである。

まことに不思議な、大隈と伊藤との関係であった。

この二人は、その人物性情においても共通なところがあり、その主義政見にも大差なかった。少なくとも政治的な考えにおいて、頑冥な藩閥政治家にはるかに遠く、むしろ大隈に近い伊藤であった。それが偶然の行きがかりから、明治十四年の政変以来、大隈の政敵として過ごさねばならなかったのである。心の中では、二人はたがい相許していながら、それが運命の皮肉である。尾崎はこれを「表面の政敵、裏面の親友」と呼んでいる。

こうして伊藤は、大隈を内閣から追い出したあと、全力を憲法制定にささげることになった。

明治十五年三月、憲法取り調べのため洋行した伊藤は、一代の碩学グナイストとシユタインについて、おもにドイツ系の憲法を研究した。

当時日本における憲法草案といえ、大隈の建議に

ちな顔って：おれは今朝から、大久保卿の後任に、誰を内務卿に推したらよいか、そればかり考えとるんじや」。すると安場がカラカラと笑った。「後任？ とほけるな、伊藤。貴公のほか誰に、あの大任がつとまると思うんか。しっかりしろ！」

この一言で、伊藤はハッと目がさめた思いだった。維新の三傑なきあと、みずから国家の柱石とならねばならぬ日が、ついに来たのだ。

こうして新内閣は、伊藤が大久保のあとを継いで内務卿となり、大隈を首席参議として成立したのであるが、他の閣員は、井上をのぞくほか、ほとんど全部が保守派で固められていた。その中であって、進歩的政策を行うには、大隈と伊藤とが、どうしても手をにぎる他なかった。この意味で二人は無一の盟友であった。

が、別の意味では、二人はまた、ゆゆしい競争者でもあった。国会開設について、伊藤と井上が、大隈と三人で、首をそろえて福沢のところへ援助をたのみに来ておきながら、それから一年もたたぬ内に、伊藤が藩閥の保守派といっしょになって、大隈を内閣から追い出した。その時、福沢は憤慨のあまり「伊藤、井上が、大隈の首をたずさえて、藩閥の軍門にくだった」と言

しても、交詢社の私擬憲法にしても（どちらも福沢門下の矢野文雄が執筆したものとされている）、すべてイギリスの憲法を手本にしたものであった。しかし伊藤は、イギリスのように君主の大権を人民に移すのはよくない。やはり明治維新以来の方針にしたがって、君主の強いドイツの憲法を手本にしなければならぬと信じたのであった。

こうして一年半ぶりに、日本に帰ってきた伊藤は、まずこれまでの太政大臣・参議・卿というような、王朝以来の古い制度を、近代国家にふさわしい内閣制度に改めることからはじめた。この内閣官制は、明治十八年十二月に発布され、伊藤がその最初の内閣総理大臣に任ぜられた。

その間にも、憲法起草の仕事は、着々と進行していた。何しろ首相として、日夜いそがしい政務にたずさわりながら、他方では、憲法起草という、日本はじめて以来の大事業をやるのだから、その苦心も並大抵ではなかった。

夜がふけて、一時、二時になっても、首相官邸の伊藤の執務室だけは、あかあかと灯がともっていた。こ



こが悪い、あそこがいかに言っているうちに、だんだん息づまり、頭が熱くなりボーッととなる。すると彼は深夜に湯殿に行つて、ザーッザーッと水をかぶる。また考える。また熱する。また水をかぶる。そんなことを幾度とくりかえしたか分らない。

隣は寝室だったが、めつたにベッドに眠ることはなかった。疲れれば、書斎の長椅子に、ゴロリと横になつて眠つた。「どうも小さい時からの習慣で、やわらかい寝台よりも、かたい長椅子のほうが、かえつて寝心地がよさそうだ」と、彼は笑つていた。

伊藤の憲法草案を助けたのが井上毅、伊藤巳代治、金子堅太郎という、少壮気鋭の三羽ガラスだった。

「いいか。こうなつたら、もう長官でも秘書官でもない。四人はひとしく憲法学者なのだ。日本の将来を決する大事な憲法を審議するのだから、遠慮は無用。わしの説が悪ければ、どこまでも攻撃しろ。そのかわり、君たちの説がまちがつておれば、片っぱしから粉砕するぞ」

さあ、こうなると三羽ガラスも真剣だ。一生懸命に研究して、ぶつかつて来る。議論が白熱すると、まるで喧嘩だ。「君たちの説は要するに愚論だよ。青二才

病気のため、午前中たった一回だけ欠席されただけで、その午後には、もう病をおして会議にのぞまれた。

それは十一月十二日の会議の時だった。会議中に、侍従があわただしく入つてきて、伊藤議長に何か耳うちをした。伊藤はびっくりした顔で、何かひそかに内装した。顧問官たちは、何事が起つたのか、まるで知らなかったが、会議がすんで、天皇が入御すると、伊藤が立ちあがつて言った。

「ただいま陛下が入御されたのは、皇子の昭宮さまが、おかくれになつたからです。ゆえにわたしは、議事を中止しますかと申し上げたのですが、陛下は、この一条がすむまで、議事を続けよと仰せられました。恐れながら陛下には、皇子の死は皇室の私事であり、憲法の会議は国家の公事である。公事の前には、私事は軽いと、おほしめされたものと存じます」

こうして明治憲法はできあがつたのである。今になつてみると、その内容には民主的でない点も多いが、それが当時の精鋭をすぐり、心魂をかたむけてつくられたものであることを忘れてはいけない。

明治二十二年二月十一日。この日は東京でも、前日

の分際で、何を言うか。もっと研究してみる」。自分の議論がまけそうになると伊藤は、はじめ言ったことは忘れて、すぐこうだから始末におえぬ。

「閣下のは討論じゃない。議論の申し渡しですな」と、しまいには秘書官たちもあきれて、サッサと引きあげることもあつた。といつて、他人の言を用いないのではない。翌日になると、ケロツとして、前日の秘書官の説を、前から自分の考えだったように、滔々と述べたてるのだから、あきれたものだった。

ふつうの元勳は、自分の説に迎合するものかわいがるものだが、伊藤は逆だった。「あいつはだめだ！ わしと議論して負けた」と、見向きもしない。そしてどこまでも突つかかつて来るような、気骨のある人材を用いたのである。

こうしてやつと憲法の草案ができた。明治二十一年四月、枢密院ができる、伊藤は総理大臣を辞し、最初の枢密院議長に任ぜられ、明治天皇の臨御をおおいで、その憲法草案が、枢密院で議せられることになつた。

御前会議は五月にはじまつて、翌年二月まで。ひっそりなしに会議をひらいたが、その間に明治天皇は、からの大雪であつたが、ふしぎなことにロンドンでも、前日の昼すぎから雪がふりだして、夜になつてもやまなかつた。ロンドンとしてはまれな大雪だったが、夜が明けると忘れたような晴天で、朝日がキラキラと雪をてらし、神もまたその喜びをわかつたかのようにあつた。

この日ロンドンの日本公使館でも、在留邦人をまねいて、盛大な祝宴が行われた。雪になれない市の中で、雪掃除もゆきとどかず、車馬の往来も困難だったので、遠方の人はどうかと心配したが、何しろ生まれではじめての喜びの日だから、雪を冒して来会するもの五十六名の多きにおよんだ。これに公使館員を加えて六十余名が、食卓について、しばらくすると、岡部代理公使が、本国からの電報をよみあげた。

「天皇陛下には今朝、人民の大熱心のうちに、みずから帝国憲法を宣布されました」

満堂の会衆は、みな拍手喝采して、陛下の万歳をさけんだのであつた。宴が終わると、階上の広間で、余興がはじまつた。ふだんこんなことをあまり好まぬ尾崎だったが、この晩だけは、うれしさに、次から次へ

と出る在留邦人のかくし芸にうち興じて、下宿にもどったのは翌朝の四時ごろであった。

星亨がロンドンにやって来たのは、それから間もなくだった。憲法発布で大赦令が下り、青天白日の身となったので、予定どおり洋行し、さっそく尾崎の下宿を訪ねて来たのだった。

「君は本が好きだから、新刊書は君に聞くのが一番だと思つて、やって来たよ」と、会うそうそう、すこぶる熱心に、いろいろ本のことをたずねる。横浜の酒宴の席で会った時の感じとはまるでちがうので、尾崎もこいつは妙だなと思つた。先方が訪ねてくれたので、礼儀として尾崎も、星の下宿を訪問した。行つてみると、部屋のなかは本がいっぱいで、いろいろの出版社から目録を取り寄せたのだろう。すでに買った本と、買おうと思ふ本の目録が、いっばいに散乱していた。

「これは見かけによらぬ男だな」と尾崎は驚いたが、それも無理はない。星はイギリス、フランス、イタリー、スペインの四か国語に通じ、実際、明治の政治家で彼ほどの読書家はまれだった。したがつてその蔵書は大変なもので、のちに蔵書は全部、慶応義塾大学に寄贈されたが、これについて板倉卓造教授は、次のように

いばつていたわけではない。ただ他の人のように、空世辞をならべ、心にもない愛嬌をふりまいて、人からよく思われようなどという気持ちは少しもなかった。

人に頭をさげることがあまりなかったが、そのかわり、どんな大官に対しても、車夫のような低い身分の者に対しても、その態度や言語に、少しも変りがなかった。その点きわめて平民的だった。

望月圭介が、京都の宿屋に、星を訪ねた時のことだった。ちょうど食事中で、星はかたわらに本を置き、読みながらたべていた。望月が用談をはじめても、やはり食事と読書をやめない。望月もこれにはいささかムツとして、「いくらなんでも、飯を食べたり、本をよくみながら、人の話をきくという法はないでしょう」と言うと、星ははじめて口を開いた。「僕は口で飯を食い、目で本を読み、耳で君の話を聞いているのだ。疑うなら、君の話したことを、全部いつてみようか」。星はこの流儀で、一生を押し通したのである。

憲法が発布されても、藩閥政府の、あくまで世論をおさえつけて、権力を守ろうとする態度は、すこしも変らなかつた。彼らの目の上のこぶは、旧改進黨の大

語っている。

「星文庫（慶大内）に蔵する書籍は洋書、和漢書を通じて、一万一千部以上ございます。この中で法律、経済、政治の書物と歴史、地理、文学の書物とが、部数において匹敵しておりますが、これらを外として、音楽のものもあれば、美術のものもあるというように、各種各部門にわたり、広く有益な書籍を、多数に蔵されている。政治家として、あれだけの書物を集めておられたということは、むしろふしぎな話に属するといわなければならぬ。諸君が記念室においてごらんのごとく、獄中から外国に注文されている本もある。フランス語の著書や、イタリー語の出版物を、その身、現に獄中にありながら、それぞれ指図して注文しているのを見まして、ただただ敬服するの外はないのであります」

星はそのような読書家であった。岡崎邦輔のごとき「星は読書のために損をした」と言っているほどで、彼はだいたい読書の時間を、むだな話にとられるのをきらい、格別の用もない訪問者は、遠慮なく謝絶した。そのため星は高慢だといつてにくまれたが、彼は別に隈重信と、旧自由党の板垣退助と、大同団結の後藤象二郎の三人であった。が、大隈はすでに入閣していたので、後藤さえつかまえば、板垣は民間にいても、もう恐れることはないと思つたのだろう。

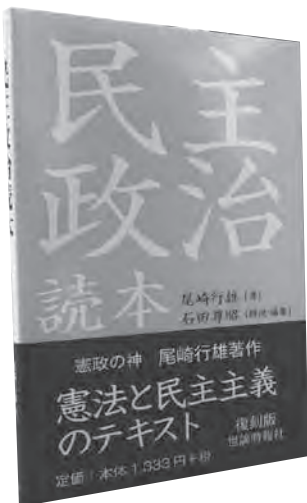
とうとう後藤を口説きおとして、黒田内閣に入閣させたのであった。後藤がどんなつもりで入閣したのか。当人は満天下の怒罵をうけながら、「これもまた大同団結の目的をとげるため必要なのじゃ」と平然としていたが、このため大同団結は四分五裂となり、いわゆる「民党」はバラバラの形で、第一回の総選挙にのぞまねばならなかつたのである。

三月中旬になると、東京の友人から、憲法発布の大赦令により、尾崎も追放を許されたこと知らせてきた。明治二十三年には、日本はじめて以来初の総選挙がある。尾崎もそろそろ帰国の支度にかかっていると、故国から驚くべき知らせが来た。「大隈外相が、霞ヶ関門外で、壮士に爆弾をなげられて、重傷をおつた」というのだった。

外国電報の文面はすこぶる簡単で、手術のようすなど、ちっともわからぬが、心配でたまらぬから、尾崎

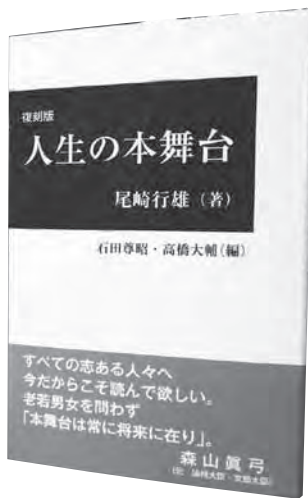
# 今蘇る

## 憲政の神 尾崎行雄著作



尾崎行雄〔著〕  
石田尊昭〔解説・編集〕  
定価:本体1,333円+税

立憲主義と民主主義に対する国民の理解と自覚を促すために書かれたのが、『民主政治読本』である。日本国憲法が施行された年に、いわば「憲法と民主主義のテキスト」として書かれた同書の内容は極めて挑発的である。すべての志ある人に読んでほしい。



尾崎行雄〔著〕  
石田尊昭・高橋大輔〔編集〕  
定価:本体861円+税

自由民権運動の60年を、私利私欲にとらわれず、社会のため、国のため、ひいては世界のために何をすべきかを考え、行動した。自らの利害得失ではなく、正邪善悪を基準に行動してきた尾崎だからこそ、「人生の本舞台は常に将来に在り」という力強い言葉が宿った。

新刊・好評発売

はさつそく、ロンドンでも有名な外科医三人の意見をたずねてみると、三人が三人とも、みんな同じことを言った。

「生きるか死ぬかは切断了た場所により、また年齢によってもちがうが、本人の地位によっても大変ちがう。アメリカの南北戦争のとき、腿から切断了たものでも、兵卒はたいして助かったが、佐官級になると、あの戦局はどうなっただろうと、心配の範囲が広くなるから、死にかたがふえる。将官級になると、その苦勞はそれどころではないから、たいして死んでしまふ。大隈さんは、年齢も五十二歳で、しかも外相という重責にあるから、おそらく十が九までは助からぬだろう」と言うのだった。

「もう大丈夫じゃ」と大隈は言っていた。あれほどの大げがをしながら、どうして助かったのか。いろいろ聞いてみると、まったく大隈の楽天主義のおかげであった。あの大手術のあと、麻酔からさめて、足を切断了たことを聞かされると、大隈は医者に「それじゃあ足に行っていた血は、みんな他の部分に行くから、前より健康になるな」そう言ったということである。

これまでは貧血がみで、閣議の席上で卒倒したことがあったが、おかげで貧血症がなおると思っただけでもない。生まれつき心に屈託のない大隈は、どんな場合にも、決して悲観や失望をしない。それが彼の命を救ったのである。

(次号・第十一章に続く)

### ●本書の申し込み方法

最寄りの書店もしくは当社へ。  
当社にお申し込み下さいますと、短日(送料無料)でお届けいたします。



## 決して広島と長崎の悲劇を繰り返してはならない

アントニオ・グテレス  
(国連事務総長)



本稿は、長崎での平和記念式典（二〇一八年八月九日開催）における、アントニオ・グテレス国連事務総長のメッセージである。

本日、この平和記念式典において、ご参列の皆様とともに、一九四五年八月九日に、ここ長崎で原子爆弾の攻撃で亡くなられたすべての方々の御霊に、国連事務総長として、謹んで哀悼の意を捧げられることを光榮に思います。今日ここにご参列の皆様、ならびに原爆のすべての犠牲者と生存者の皆様に対し、最も深い尊敬の念を表明します。

ここ長崎を訪問できましたことは、私自身にとっても大変な喜びです。五世紀近くにわたり、私の国、ポルトガルは、この街と深い政治的、文化的、宗教

的なつながりがあります。しかし、長崎は、長い魅力的な歴史を持つ国際都市というだけではありません。より安全で安定した世界を希求する世界のすべてのの人にとっての、インスピレーションでもありません。この皆様方の街は、強さと希望の光であり、人々の不屈の精神の象徴です。

爆発の直後、そしてその後何年、何十年にもわたって十数万もの人々の命を奪い、人身を傷つけてきた原爆も、あなたがたの精神を打ち砕くことはできませんでした。広島と長崎の原爆を生き延びた被爆者の方々は、ここ日本のみならず、世界中で、平和と軍縮の指導者となってきました。彼らが体現しているのは、破壊された都市ではなく、彼らが築こうとしている平和な世界です。

原爆という大惨事の焼け跡から、被爆者の方は人類全体のために自らの声を上げてくれました。私たちは、その声に耳を傾けなければなりません。決して広島を繰り返してはなりません。長崎の悲劇を繰り返してはなりません。一人たりとも新たな

被爆者を出してはなりません。

悲しいことに、被爆から七十三年経った今も、私たちは核戦争の恐怖とともに生きています。ここ日本を含め何百万人もの人々が、想像もできない殺戮の恐怖の影の下で生きています。

核保有国は、核兵器の近代化に巨額の資金をつぎ込んでいます。二〇一七年には、一兆七千億ドル以上のお金が、武器や軍隊のために使われました。これは冷戦終了後、最高の水準です。世界中の人道援助に必要な金額のおよそ八十倍にあたります。その一方で、核軍縮プロセスが失速し、ほぼ停止しています。多くの国が、昨年、核兵器禁止条約を採択したことで、これに対する不満を示しました。

また、核兵器以外にも、人々を執拗に殺傷する様々な兵器の危険も認識せねばなりません。化学兵器や生物兵器などの大量破壊兵器や、サイバー戦争のために開発されている兵器は、深刻な脅威を呈しています。そして、通常兵器で戦われる紛争は、ますます長期化し、一般市民への被害はより大きくなって

峯堂と号した《憲政の神様》《元東京市長》  
に見る政治家像の原点！

keio UP 選書

# 峯堂 尾崎行雄

相馬雪香・富田信男・青木一能編著



定価 2,520円(税込)  
四六版 336頁  
ISBN4-7664-0794-6

目次	
第一章 尾崎行雄 その政治理念と行動	富田信男
第二章 尾崎行雄の平和思想と世界連邦論	青木一能
第三章 東京市長・尾崎行雄	黒宮時代
第四章 欧米の文献に見る峯堂	原不二子
第五章 思い出の数々	相馬雪香
第六章 思い出すまに	
服部フミ・伊佐秀雄・三宅太郎・小川紫郎・樋口孝治	

発行・発売元：慶應義塾大学出版会  
〒108-8346 東京都港区三田 2-19-30 TEL:03-3451-3584 FAX:03-3451-3122

お問い合わせ・お申し込みは下記まで  
(一財)尾崎行雄記念財団 TEL:03-3581-1778 FAX:03-3581-1856

峯堂（かくどう）と号し、明治10年代の青年時代から昭和29年の晩年まで、議会制民主主義の確立に努力した尾崎行雄。「憲政の神様」と称され、東京市長を10年務め、ワシントンDCに桜の木を贈った尾崎行雄。人権尊重、国際平和の実現のために、藩閥政治、官僚政治、軍閥政治と果敢に戦った尾崎行雄。

欧米、とりわけアメリカで高く評価される尾崎行雄の思想と理念を明らかにし、近親者によるさまざまなエピソードから家庭人としての魅力的な人物像をも描き出す。

います。あらゆる種類の兵器について緊急に軍縮を進める必要性がありますが、特に核兵器の軍縮はもっとも重要で緊急の課題です。このような背景の下、今年五月に私はグローバルな軍縮アジェンダを発表しました。

軍縮は、国際平和と安全保障を維持するための原動力です。国家の安全保障を確保するための手段です。軍縮は、人道的原則を堅持し、持続可能な開発を促進し、市民を保護するのを助けます。

私の軍縮アジェンダは、核兵器による人類滅亡のリスクを減らし、あらゆる紛争を予防し、核兵器の拡散や使用が一般市民にもたらす苦痛を削減するために、現在の世界で実現可能な様々な具体的な行動を打ち出すものです。このアジェンダは、核兵器が、世界の安全保障、国家の安全保障、そして人間の安全保障の基盤を損なうことを明らかにしています。

核兵器の完全廃絶は、国連の最も重要な軍縮の優先課題なのです。ここ長崎で、私は、すべての国に対し、核軍縮に全力で取り組み、緊急の問題として目に見える進歩を遂げるよう呼びかけます。核保有

国には、核軍縮をリードする特別の責任があります。長崎と広島から、私たちは、日々平和を第一に考え、紛争の予防と解決、和解と対話に努力し、そして紛争と暴力の根源に取り組みむ必要性を、今一度思い出そうではありませんか。

平和とは、抽象的な概念ではなく、偶然に実現するものでもありません。平和は人々が日々具体的に感じるものであり、努力と連帯、思いやりや尊敬によって築かれるものです。原爆の恐怖を繰り返し想起することから、私たちは、お互いの間の分かち合い責任の絆をより深く理解することができます。私たちみんな、この長崎を核兵器による惨害で苦しんだ地球最後の場所にするよう決意しましょう。その目的のため、私は、皆様方と共に全力を尽くしてまいります。

【長崎IDN・INPS】

## 財団だより

### ■財団だより

◇四月十日（火）、当財団及びNPO法人一冊の会・日本タンザニア友好協会・アフリカ開発協会共催による「タンザニア・コーヒーアワー」が駐日タンザニア大使館公邸で開催され、石田尊昭・当財団理事が出席しました。

◇四月二十一日（土）、罌堂塾設立二十周年記念・特別講演会を憲政記念館にて開催。講師は、コラムニストの勝谷誠彦氏。テーマは「これからの『政治』の話しよう」。当日は定員を大幅に上回る参加者で大変盛況でした。講演内容は本号に収録。

◇五月二十一日（月）、当財団主催「政経懇話会」を憲政記念館内レストラン「霞ガーデン」にて開催。講師は、外務省診療所長の仲本光一氏。テーマは「海外邦人への医療支援」。このご縁により、改めて「海外邦人支援」をテーマにした論文を本号にご執筆いただきました。

◇五月二十二日（火）、自治体衛星通信機構理事長の久保信保氏による講演「災害時における衛星通信の重要性について」を憲政記念館にて開催（GII共催講演会）。

◇五月二十六日（土）、第二十期「罌堂塾」入塾式兼第一回講義を開催。今期は全国から二十五名（オンライン五名含む）が集まりました。講師は、石田尊昭・当財団理事兼事務局長。テーマは「尾崎行雄と相馬雪香―その信念と生き方」。

◇六月二十三日（土）、「罌堂塾」第二回講義を開催。講師は、ネット選挙コンサルタントで武蔵大学非常勤講師の高橋茂氏。テーマは「政治・選挙でインターネットが持つ可能性と限界点」。

◇六月三十日（土）、「罌堂塾」第三回講義を開催。講師は、当財団研究員・IT統括ディレクターの高橋大輔氏。テーマは「憲政史から考える、わが国の未来」。

### 世界と議会（第五八〇号）

定価五百円

発行所 一般財団法人 尾崎行雄記念財団

〒100-0001 東京都千代田区永田町1-1-1 憲政記念館内

電話 〇三（三五八一）一七七八

ファックス 〇三（三五八一）一八五六

ホームページ <http://www.ozakiyukio.jp>

メール [info@ozakiyukio.jp](mailto:info@ozakiyukio.jp)